

「羽後牛食べて合格祈願」 羽後町中 3 生にステーキ提供



羽後町は、高校受験を控えた羽後中学校の 3 年生 83 人を激励しようと、昼食に羽後牛のステーキを提供している。生徒は 1～3 日かけて 1 学級ずつ家庭科の授業で自ら調理し、町特産の高級肉を味わった。

1 日は 3 年 A 組の 28 人が、サラダなどの副菜やスープを作ってから、200 グラムのサーロインステーキをフライパンで焼き上げた。焼きたての肉を口にしながら「おいしい」と笑顔を見せていた。

学級委員長の柿崎蓮音さんは「地域の方に応援されていることを改めて実感した。合格の力にしたい」と話した。町は高校受験を応援するとともに、町特産品の良さを知って古里に愛着を持ってもらおうと、2017 年度から羽後牛のステーキを受験生に提供している。

(湊文香)

(令和 4 年 2 月 4 日(金)秋田魁新聞記事より抜粋)

「恵方巻きで合格祈願」 地元寿司店 阿仁中生へ贈る



北秋田市阿仁銀山の万来寿し(米澤敬一郎店主)は 3 日、高校入試合格を願い、地元の阿仁中学校 3 年生 10 人に恵方巻きを贈った。

米澤さん(59)の妻美津子さん(53)が学校を訪れ、代表の佐藤大悟さん(15)に手渡した。生徒たちは教室で今年の恵方である北北西を向き、無言で頬張った。

恵方巻きは直径 4.5cm、長さ 8.5cm。卵やキュウリ、かんぴょうなどが入っている。恵方巻きを包むラップには「合格祈願」の文字が入った紙が付いている。佐藤さんは「キュウリや卵などの食感がよくおいしかった。受験に向けてベストを尽くして頑張りたい」と話した。

阿仁中の 3 年生に毎年贈っており、14 回目。美津子さんは「みんなで黙って同じ方向を向いて食べた不思議な経験を、卒業後も思い出してくれればうれしい。風邪をひかないよう気を付けて勉強に励んでほしい」と話した。

(本多恒顕)

(令和 4 年 2 月 4 日(金)秋田魁新聞記事より抜粋)